

大気化学研究会ニュースレター

- No.8 -

Autumn 2002

大気化学研究会からのお知らせ

大気化学研究会役員選挙の公示

東北大学大学院理学研究科 中澤 高清（選挙管理委員長）

大気化学研究会会則の選挙細則にもとづき、下記の要領で第三期運営委員会役員を選出しますので、会員の皆さまのご協力をお願い致します。2002年度の会費を納入したすべての会員に選挙権と被選挙権があります。

役員選出日程

2002年10月	ニュースレター8号による公示と会員への投票用紙の郵送、郵送による投票の開始
2002年12月1日(日)	投票締め切り(選挙管理委員会必着)
2002年12月4日(水)	開票・当選者の確定(その後、電子メールとニュースレター9号によって結果公表)
2003年1月	総会にて報告・承認
2003年4月	新運営委員会活動開始

選挙要領

1. 選出役員数：運営委員会役員12名、うち1名を会長とする。
2. 投票の締め切り：2002年12月1日(日)までに選挙管理委員会へ必着のこと
3. 投票用紙送付先：〒980-8578 宮城県仙台市青葉区字青葉 東北大学大学院理学研究科 大気海洋変動観測研究センター内 大気化学研究会選挙管理委員会宛
4. 投票方法：投票用紙に6名連記(内1名は会長への投票)して、投票用封筒に入れ密封し、さらに郵送用封筒に入れて送付すること。投票は無記名とする。なお、今回の改選では、選挙細則に加えてさらに下記の特例が適用されますので、ご注意下さい。

選挙細則

第1条 大気化学研究会運営委員会役員を選出に係る本細則の設置は、研究会会則によって定める。

第2条 選挙管理委員会は次の事業を行う。

1. 選挙の公示
2. 投票および開票に関する事務
3. 当選の確認と公表
4. その他選挙管理に必要な事項

第3条 選挙管理委員は、会則第5条によって会長が運営委員より4名を委嘱し、委員長は互選とする。

第4条 選出すべき運営委員会役員は、当該年度会費を納入したすべての会員(以下会員という)同士の互選とし、会員は選挙に際して選挙権と被選挙権を有する。

第5条 役員任期を2期連続した者は被選挙権をもたない。

第6条 選出すべき運営委員会役員およびその定数は以下の通りとする。

会長1名、副会長1名、幹事5名、運営委員5名

第7条 選出すべき運営委員会役員として6名を無記名投票する。うち1名を会長への投票とする。会長への投票数は、運営委員会役員を選出のための得票としても数えることとする。

第8条 当選者は得票数の多い順に選出され、得票同数の場合は抽籤によるものとする。

第9条 副会長は選出された運営委員会役員による互選とする。

第10条 幹事と運営委員の別は、新たに組織された運営委員会において決定する。

この細則は2000年6月1日から実施する。

今回に限り適用される特例

現在の運営委員14名のうち10名がすでに2期連続して運営委員を務めており、選挙細則の規約第5条によると、これらの者は次期運営委員会役員に就任することはできないことになる。しかしながら、この規約を厳密に適用すると、研究会の運営の連続性や役員の年齢構成に問題を生ずる懸念がある。そのため、平成14年6月7日に洞爺湖文化センターで開催された臨時大気化学研究会会員総会において、今回の改選に限り、以下の方法によって、該当する10名のうち最大5名が役員として選出されることができるとの特例を設けることが承認された。

得票の多い上位12名(辞退者・失格者を除く)を運営委員会役員として選出するが、その中に、2期連続運営委員

であってさらに委員を続ける意思のある者を5名まで含むことができる。上位12名の中に、2期連続運営委員であってさらに委員を続ける意思のある者が5名を越えて含まれた場合には、6位以下を失格とする。

なお、第一期および第二期運営委員会役員は以下の通りです(会長推薦の役員を含む)。また、秋元肇会長は、次期会長および運営委員会役員を辞退するとの意思表示をされています。

第一期				第二期			
会長：秋元 肇	副会長：中澤高清	会長：秋元 肇	副会長：近藤 豊				
運営委員：岩坂泰信 植松光夫 小川利紘 梶井克純	運営委員：岩坂泰信 植松光夫 北 和之	小池 真 梶井克純 河村公隆	笹野泰弘 白井知子 中澤高清				
白井知子 堤 之智 中根英昭 町田敏暢	長谷部文雄 林田佐智子 松見 豊						
松見 豊 横内陽子							

今期選挙管理委員 中澤高清(委員長) 梶井克純、林田佐智子、小池真

第13回大気化学シンポジウムのご案内

来る2003年1月8日~10日の3日間、第13回大気化学シンポジウムを下記の通り開催いたします。大気化学シンポジウムでは、対流圏および成層圏大気化学・輸送過程について最新の研究成果を発表しあい、十分時間をかけて密度の濃い議論を行うことを目的としております。また、研究者どうしの情報交換を行い、それぞれの研究プロジェクトの相互理解を深める機会となるよう希望しております。

[対流圏セッションコンピナー：北 和之より]

対流圏化学・輸送関連の多数の講演申込みを期待しております。とりわけ、TRACE-P/ACE-ASIA/APEX/PEACE観測キャンペーン、新しい観測手法(従来手法の評価なども含む)黄砂とエアロゾルなどについて、まとまった数の講演申込みがあれば、特別セッションを考えています。その他にもセッションの希望がありましたらご相談ください。

[成層圏セッションコンピナー：林田佐智子より]

昨年の大気化学シンポジウムに「成層圏セッション」を提案しましたところ、27件もの申し込みを頂き、招待講演も含め1日半の盛況ぶりでした。そこで今回も「成層圏セッション」を提案させていただきます。成層圏セッションの主旨は昨年と同様に、中層大気力学と大気化学の研究者を中心に、関連分野の研究者の交流の契機としようというものです。申し込みが多ければポスターセッションも考えますので、大いに参加下さいますようお願い致します。

日程：2003年1月8日(水) - 10日(金)

場所：豊川市民プラザ(プリオIIビル4階) TEL: 0533-80-5122, FAX: 0533-80-5125

会場への交通は以下のような方法があります。1)名古屋鉄道(名鉄)豊川線諏訪町(すわちょう)駅より徒歩3分、2)JR飯田線豊川駅よりタクシーで約10分(1100円程度)または「豊橋方面行き」バスで約10分「豊川体育館前」で下車し徒歩1分、3)JR豊橋駅より「豊川方面行き」または「新城・田口方面行き」バスで約30分「豊川体育館前」で下車し徒歩1分、4)東名豊川ICより車で10分。

参加費：シンポジウムの参加登録費は無料です。

懇親会：1月9日夜に豊川市民プラザにて懇親会を予定しております。(懇親会参加費有料)

宿泊：クオリティホテル豊川(会場の豊川市民プラザと同じ建物)を割引料金6,142円(税込み、朝食代別)にて利用することができます。宿泊ご希望の方は、ホテルへ直接お申し込み下さい。その際必ず「名古屋大学の大気化学シンポジウムで利用」とお申し出下さい。宿泊者駐車場あり。

クオリティホテル豊川(<http://www.greens.co.jp/>) TEL:0533-80-5111, FAX:0533-80-5115

発表申込み：シンポジウムでの発表希望者は、講演題目、氏名(発表者の前に丸)所属略称、申込者氏名、連絡先(住所、電話、FAX、e-mail)、旅費支給の希望の有無、口頭またはポスターの希望、懇親会の出席希望の有無、以上を書いた電子メールを連絡先電子メールアドレスへお送りください。もしくは、A4紙に記入の上で下記連絡先住所へ郵送でお送りください。

申込み締め切り：2002年11月22日(金)

なお詳細は、ホームページ<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>に掲載いたします。

世話人：東京大学先端科学技術研究センター 近藤 豊、
名古屋大学太陽地球環境研究所 松見 豊

連絡先：〒442-8507 豊川市穂ノ原 3-13 名古屋大学太陽地球環境研究所 第一部門内大気化学シンポジウム係
TEL: 0533-89-5192 FAX: 0533-89-5593 E-mail: taikiken@stelab.nagoya-u.ac.jp

第8回大気化学研究会運営委員会および第5回大気化学研究会会員総会の報告

第8回大気化学研究会運営委員会議事録

日時：平成14年6月6日(木) 20:00-21:30

場所：洞爺湖万世閣(大気化学討論会宿舎)

出席者：秋元肇、植松光夫、河村公隆、梶井克純、林田佐智子、松見豊、今村隆史(笹野泰弘の代理)

書面による参加：近藤豊、中澤高清、小池真、北和之、長谷部文雄

1. 事務局(松見委員)より会員状況および会計報告があった。

平成14年度会費納入者(6月5日現在)

一般会員 88名(新規8名、更新80名) 学生会員 42名(新規15名、更新27名) 計129名

平成13年度会員

一般会員 157名 学生会員 71名 計228名

今後会員登録を更新していない会員に連絡する予定であること、および会計状況については、毎年の会員会費で運営費がまかなえていることが報告された。

2. 役員改選問題について

秋元会長より「2003年3月で現在の運営委員の任期が終わるので、改選を行うことになる。問題点として、現在の運営委員14名のうち10名がすでに2期連続して運営委員を務めており、選挙細則第5条によるとこの10名は次期運営委員会役員にはなれない。このままだと、研究会の運営の連続性、役員の年齢構成に問題が生じるので、対策を考える必要がある。」との問題提起があった。

この問題について議論した結果、今回の改選に限り、この10名の半数の最大5名を上限として役員に再び選出されることができる特例(本ニュースレター1~2ページの選挙公示内を参照してください)を設けることを臨時の会員総会に諮ることとした。秋元会長より、次期は会長・運営委員会役員を辞退する旨の意思表示があった。

3. 選挙管理委員の指名

選挙細則にもとづき、秋元会長から運営委員会役員の中から次の4名の選挙管理委員の指名があった。

中澤高清、梶井克純、林田佐智子、小池真の各委員

選挙管理委員長は選挙細則にもとづき、後日委員の間で互選で選ぶ。(中澤高清委員が選出されました)

4. 次回大気化学討論会の開催の準備状況について笹野委員の代理の今村隆史氏より説明があった。

臨時大気化学研究会会員総会議事録

日時：平成14年6月7日(金) 16:20-16:40

場所：洞爺湖文化センター(大気化学討論会会場)

議題：1. 会員状況、会計報告

2. 運営委員選挙について

秋元会長より次回の運営委員会の改選時の特例案について説明があり、満場一致で承認された。

(議事録作成：大気化学研究会事務局 松見 豊)

会員からのお知らせ・報告

第8回 大気化学討論会の開催報告

北海道大学低温科学研究所 持田 陸宏、河村 公隆

平成14年6月7日から9日の3日間にわたって、北海道虻田町洞爺湖温泉の洞爺湖文化センターにおいて第8回大気化学討論会が開催されました。参加者は81名、30件の口頭講演と、35件のポスター講演、合計65件の発表がなされました。昨年の大津、一昨年の鳥羽の討論会と比較すると参加者はやや少なくなりましたが、今回は北海道における開催で遠距離の会員が多かったことを考慮すると、それなりの規模になったと思います。また、開催地が遠距離であったことも幸いし、ほとんどの出席者が全日程の参加であり、会場において活発な討論が行われました。内容的には、昨年に引き続きエアロゾル関連の発表が多かったのが印象的で、昨年国際共同研究として実施されたACE-Asiaなどの観測プロジェクトからの興味深い報告がありました。また、新しい測定法に関する報告もいくつかありました。多くの発表は対流圏化学に関するものでしたが、成層圏に関する研究発表も行われ、今後も対流圏と成層圏の双方の研究をつなぐ場として本討論会が活用されることが期待されます。同位体化学、反応実験、数値モデル計算など成果発表も多岐にわたっており、幅広い領域の報告が定着して来ていると感じられました。

今回の討論会の開催地を選定するにあたっては、北海道内のいくつかの場所が候補に挙がりましたが、最終的に空港からのアクセスが比較的良好な洞爺湖温泉を選びました。既に訪れたことのある会員も多くいらしたと思われるが、有珠山の新しい噴火口など、地球科学的に興味深い見所があり関心を持たれる方も多いだろうというのも判断の基準の1

つでした。また、今回は適当な会議場を備えるホテルが見つからず、宿泊先(洞爺湖万世閣)と発表会場を別々に確保することになりました。移動を伴うため天候が心配でしたが、討論会の開催期間中は好天に恵まれ、散歩気分で移動した方も多かったのではないかと推察しております。この点、北海道の大自然に助けられたと思っています。

参加者の構成を見ると、第1回の大気化学討論会から参加している方がいらっしゃる一方で、今回の討論会から新たに参加された方も少なからずおられたようです。他の環境研究のコミュニティーとは異なる本研究会の特色を維持しつつも、仲良しクラブになることなくオープンな雰囲気を保ち、分野の成長を図ることも重要であると思います。この意味で、周辺分野、あるいは異分野の研究者を積極的に引き込むことにより、大気化学の新たな流れを作りうる研究を切り開いていくことも大事ではないでしょうか。

最後に、今回の会場はホテルではなく公共のホールを借り上げたため、機材や机、椅子の設置等を主催者側の手作り、手作業で行った部分が数多くありました。会場の設置等で協力いただいた北大低温研海洋環境分野の学生さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

SOWER/Pacific 活動報告

北海道大学大学院地球環境科学研究科 長谷部 文雄、京都大学宙空電波科学研究センター 塩谷 雅人
熱帯対流圏・成層圏におけるオゾン・水蒸気の分布とそれらの変動に対する支配過程の理解、また、対流圏界面を通じた物質交換過程の解明は、大気力学的に興味深い課題である。特に最近では、成層圏における水蒸気の増加トレンドが注目されており、これが下部成層圏における寒冷化やオゾンの減少に影響を与えていることが示唆されている。一方、インドネシアの森林火災にともなって大気中に放出される炭化水素類や、深層水の湧昇する熱帯東部太平洋の高い生物生産性に起因する高濃度ハロゲン化合物等のオゾン収支に対する影響評価は、大気化学的に重要な研究課題である。これらの課題を視野におきながら、熱帯地方で決定的に不足している観測データの取得、さらには衛星観測に対する検証データの提供を目的として、われわれは Soundings of Ozone and Water in the Equatorial Region/Pacific Mission (SOWER/Pacific)を計画し、実施している。

SOWER/Pacific において選ばれた熱帯太平洋域を代表する観測点は、以下の3地点である。西太平洋域にあるインドネシアのワトコセ、中央太平洋キリバスのクリスマス島、東太平洋エクアドルのガラパゴス諸島。観測には、通常のラジオゾンデに加えて、ECC オゾンゾンデ、NOAA/CMDL による鏡面冷却型水蒸気ゾンデを使用しているが、同時に、安価で取扱いの容易な鏡面冷却方式露点温度計("Snow White")の開発改良を海外の研究者と共同でおこなっている。これまでに上記3地点で以下のようなキャンペーン観測をおこなってきた。サンクリストバル島: 1998年3-4月以降7回; クリスマス島: 1999年2-3月以降7回; インドネシア: 2000年9月以降4回。今年度は特に、エルニーニョが進行していると考えられるので、クリスマス島で集中観測をおこなっている。

これらのデータにもとづいて、これまでに以下のような成果が得られている:

- * 熱帯東部太平洋における対流圏界面変動: サンクリストバルにおけるラジオゾンデデータを整理し、熱帯東部太平洋での対流圏界面変動の特徴をはじめて明らかにした(Hasebe & Koyata, J. Meteor. Soc. Japan, 2002)。
- * 熱帯対流圏界面領域の水蒸気分布: 我々の水蒸気ゾンデデータにもとづき、これまで観測のなかった領域での水蒸気変動の季節性・地域性を論じるとともに、脱水過程について考察した(Voemel et al., J. Geophys. Res. 2002)。
- * 赤道ケルビン波による水蒸気コントロール: サンクリストバルにおける水蒸気ゾンデデータから、圏界面付近のケルビン波が成層圏の水蒸気量を規定している可能性を示唆した(Fujiwara et al., Geophys. Res. Lett., 2001)。
- * 赤道東太平洋における照洋丸観測: 赤道東太平洋で船舶から世界ではじめてのオゾンゾンデ観測をおこない、そこでの対流圏オゾン変動を明らかにした(Shiotani et al., J. Meteor. Soc. Japan, 2002)。

今後はより広い分野の研究者の参加を得て、長年培われてきた先端的な観測手法を取り入れながら SOWER を発展させたいと考えている。

「大気化学入門」Daniel J. Jacob 著、近藤 豊 訳、東京大学出版会(2002)の紹介

大気化学は、今日我々が直面している環境問題に密接に関連した重要な研究分野である。また、大気化学は化学、地球科学、環境科学といった研究分野が融合した学際性の高い魅力的な学問分野である。しかし一方では、この学際性のため、特に初学者には、大気化学の統一的な理解が困難になりがちである。この点から、大気化学の系統的な教科書が必要であるが、これまで、このような必要性を満たす理想的な教科書が世界的にもなかった。初学者の多くにとって、数多くの数式や化学反応式が書かれている分厚い大気化学の本を最初から理解するのは困難なことである。本書は、物理と化学の基礎的な法則だけを用いて、大気化学という学問体系の本質的な部分を教えてくれる。第一線の研究者が読んでも興味深く、また知識の整理におおいに役立つのではないだろうか。(記者まえがきより抜粋)

発行: 大気化学研究会ニューズレター編集委員会(北 和之、白井知子、小池 真)

連絡先: 〒442-8507 豊川市穂ノ原3-13 名古屋大学太陽地球環境研究所 第一部門気付 大気化学研究会事務局

電話 0533-89-5192、ファックス 0533-89-5161、電子メール taikiken@stelab.nagoya-u.ac.jp

ホームページ: <http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>

